

2026年度
済生会福岡総合病院
初期臨床研修プログラム概要

済生会福岡総合病院
臨床研修管理委員会

2026 年度済生会福岡総合病院
初期臨床研修プログラム概要目次

1. プログラムの名称.....	2
2. プログラムの特徴と目的.....	2
3. 研修プログラム責任者.....	2
4. プログラムの概要.....	2
5. 研修協力病院・施設.....	3
6. 研修の方法.....	5
7. 経験すべき症候、経験すべき疾病・病態.....	5
8. 各科の具体的な研修目標.....	5
9. 研修の評価と修了認定.....	8
10. 募集定員と採用方法.....	9
11. 身分及び処遇.....	9

1. プログラムの名称

済生会福岡総合病院臨床研修プログラム

2. プログラムの特徴と目的

必修分野である内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急（麻酔科含む）、地域医療、一般外来（総合診療）の研修に加え、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、形成外科も病院独自の必修科目に加え、プライマリ・ケアと救急医療の初期対応のみならず、その実際を徹底的に実践し、さらに従来の各診療科にとられない患者本位の診療態度を習得する。選択期間では更に各科での研修を充実させる。

医師としての人格を涵養し、将来の専門性関わらず、医学・医療の社会的ニーズを確認しつつ、全ての医師に求められる幅広い基本的能力を身に付けることである。プライマリ・ケアと医療の原点である救急医療を基盤とした研修を実践する。

3. 研修プログラム責任者

プログラム責任者：原田 昇（病院長特任補佐兼肝胆膵外科主任部長、研修管理委員長）

副プログラム責任者：田中 和豊（臨床教育センター長兼総合診療部主任部長）

4. プログラムの概要

2020年度から必修科目となった内科 30.3 週（7 ヶ月）、救急 8.6 週（2 ヶ月）、外科 8.6 週（2 ヶ月）、小児科 4.3 週（1 ヶ月）、産婦人科 5.3 週（1.2 ヶ月）、精神科 4.3 週（1 ヶ月）、地域医療 4.3 週（1 ヶ月）に加え、整形外科 4.3 週（1 ヶ月）、泌尿器科 2 週、形成外科 2 週、脳神経外科 4.3 週（1 ヶ月）、麻酔科 8.6 週（2 ヶ月）を研修し、選択科目については 16.4 週（3.8 ヶ月）とする。一般外来研修に関しては、内科研修中に総合診療外来を 8.6 週（2 ヶ月）行う。地域医療については 2 年次に研修を行う。

研修カリキュラム例

<1 年次>

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内科					精神科	麻酔科	救急		外科	整形	泌尿器 /形成

<2 年次>

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内科	小児科	産婦人科	地域医療	麻酔科	外科	脳神経外科	選択				

- ・精神科については、福岡県立精神医療センター太宰府病院、福岡病院、雁の巣病院のいずれかで研修を行う。
- ・小児科については、福岡赤十字病院で研修を行う。
- ・産婦人科については、済生会福岡総合病院と、東野産婦人科、青葉レディースクリニック、あまがせ産婦人科のいずれかで研修を行う。

- ・地域医療については、済生会唐津病院（済生会介護老人保健施設まつら荘、済生会特別養護老人ホームめずら荘、まえざとホームクリニックを含む）あるいは済生会飯塚嘉穂病院にて研修を行う。
- ・選択研修は、済生会福岡総合病院にて行う。診療科は、内科、循環器内科、心臓血管外科、外科、脳神経外科、脳神経内科、整形外科、形成外科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、総合診療部、麻酔科、救急科、病理診断科、泌尿器科の中から選択できる。
- ・選択期間を利用し 4.3 週（1 ヶ月）を上限として済生会八幡総合病院で外科（緩和ケア）研修を行うこともできる。
- ・受け入れ状況等にもよるが、選択期間を利用して 2 週を上限として済生会岩泉病院で地域医療研修を行うこともできる。

5. 研修協力病院・施設

・福岡赤十字病院

所 在 地：福岡県福岡市南区大楠 3-1-1
 研修科目：小児科
 研修期間：4.3 週（1 ヶ月）

・福岡病院

所 在 地：福岡県福津市花見が浜 1-5-1
 研修科目：精神科
 研修期間：4.3 週（1 ヶ月）

・済生会唐津病院

所 在 地：佐賀県唐津市元旗町 817
 研修科目：地域医療
 研修期間：4.3 週（1 ヶ月）

・済生会介護老人保健施設まつら荘

所 在 地：佐賀県唐津市江川町 694-1
 研修科目：地域医療（済生会唐津病院で地域医療研修を行った場合のみ）
 研修期間：0.5 日～1 日

・済生会特別養護老人ホームめずら荘

所 在 地：佐賀県唐津市東唐津 4-7-26
 研修科目：地域医療（済生会唐津病院で地域医療研修を行った場合のみ）
 研修期間：0.5 日～1 日

・まえざとホームクリニック

所 在 地：佐賀県唐津市原 1370 番地唐津インター店 B
 研修科目：地域医療（済生会唐津病院で地域医療研修を行った場合のみ）
 研修期間：1 日

- ・ 済生会飯塚嘉穂病院
 - 所 在 地：福岡県飯塚市太郎丸 265
 - 研修科目：地域医療
 - 研修期間：4.3 週（1 ヶ月）

- ・ 福岡県立精神医療センター太宰府病院
 - 所 在 地：福岡県太宰府市五条 3-8-1
 - 研修科目：精神科
 - 研修期間：4.3 週（1 ヶ月）

- ・ 雁の巣病院
 - 所 在 地：福岡県福岡市東区雁の巣 1-26-1
 - 研修科目：精神科
 - 研修期間：4.3 週（1 ヶ月）

- ・ 医療法人愛成会 東野産婦人科
 - 所 在 地：福岡県福岡市中央区草香江 2-2-17
 - 研修科目：産婦人科
 - 研修期間：1 週

- ・ 医療法人青葉レディースクリニック
 - 所 在 地：福岡県福岡市東区若宮 5-18-21
 - 研修科目：産婦人科
 - 研修期間：1 週

- ・ あまがせ産婦人科
 - 所 在 地：福岡県大野城市東大利 1-14-6
 - 研修科目：産婦人科
 - 研修期間：1 週

- ・ 済生会八幡総合病院
 - 所 在 地：福岡県北九州市八幡西区大字則松 275 番地
 - 研修科目：外科（選択）
 - 研修期間：4.3 週（1 ヶ月）

- ・ 済生会岩泉病院
 - 所 在 地：岩手県下閉伊郡岩泉町岩泉字中家 19-1
 - 研修科目：地域医療
 - 研修期間：2 週

6. 研修の方法

- ・各科に卒後7年以上の指導医を配置する。指導医は原則として指導医講習会受講者である。
- ・研修医は指導医とあるいは指導医＋専攻医とともに担当患者の担当医として、診療にあたる。最終的な診療上の責任者は指導医である。
- ・研修医は各診療科のカンファランス・回診に参加する。
- ・特に、C P Cを2年間の間に最低1回は担当・発表する。
- ・2年次の2月に行う、症例発表会で発表を行う。

7. 経験すべき症候、経験すべき疾病・病態

- ・外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体初見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

経験すべき症候 ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

- ・外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診察にあたる。

経験すべき疾病・病態 脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬化、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

8. 各科の具体的な研修目標

1) 内科研修

- ・内科研修は済生会福岡総合病院において行う。
- ・糖尿病、腎臓、感染症、呼吸器、消化器、肝臓、膵胆道、循環器、脳神経、総合診療の研修を行う。

研修到達目標

a) 基本的手技（これらの手技は指導医の監督の下で経験・修得する。研修医の技能としてこれらの手技・処置を研修医が単独で行うことが危険であると指導医が判断した時には指導医はこれらの基本手技を研修医が単独で行うことを許可してはならない、研修医は指導医の許可なくして行ってはならない。）これらの基本手技に関する許可条件は以下に述べる内科研修以外の研修においても適用される。

- ・注射法（皮内・注射法（皮内・皮下・筋肉・点滴・静脈確保・中心静脈確保など）、採血（静脈・動脈）、穿刺法（胸腔・腹腔）、導尿法、ドレーン・チューブ類の管理、胃管の挿入、心肺蘇生術、直流除細動、心マッサージ

b) 経験すべき疾患・病態

- ・神経系疾患：脳血管障害、認知症性疾患、変性疾患（パーキンソン病）、髄膜炎
- ・循環器疾患：心不全、狭心症・心筋梗塞、不整脈（頻脈性・徐脈性）、弁膜症、動脈疾患、静脈・リンパ系疾患、高血圧
- ・呼吸器疾患：呼吸不全、呼吸器感染症、閉塞性・拘束性肺疾患、肺癌、肺血栓塞栓症、胸膜・縦隔疾患
- ・消化器疾患：食道・胃十二指腸疾患、小腸・大腸疾患、肝疾患、すい臓疾患、腹壁・腹膜疾患

- ・腎臓系疾患：腎不全、原発性糸球体疾患、糖尿病性腎症
- ・代謝疾患：糖尿病、高脂血症
- ・感染症：ウイルス感染症、細菌感染症、結核

2) 外科研修

- ・外科研修は済生会福岡総合病院で行う。
- ・選択期間を利用して4.3週を上限として済生会八幡総合病院^{※①}で研修を行うこともできる。

研修到達目標

a) 基本的手技

- ・外科的基本手技：縫合・結紮、採血、動脈穿刺、静脈確保、中心静脈カテーテル留置、ドレーン・チューブの管理、胃管の挿入・外科小手術：局所麻酔法、創部消毒とガーゼ交換、切開・排膿、皮膚縫合
- ・周術期管理：診断・治療計画、症例提示、輸液管理、栄養管理、呼吸および循環管理
- ・その他：癌の告知、ターミナルケアなど

b) 経験すべき疾患・病態

- ・消化器外科疾患：食道・胃・十二指腸、小腸・大腸、胆嚢・胆管、肝疾患、膵疾患、急性腹症
- ・呼吸器外科疾患：気胸
- ・腹壁・腹膜疾患：ヘルニア、腹膜炎
- ・乳腺腫瘍・甲状腺疾患・下肢静脈瘤

研修実施責任者：赤司 一義^{※①}

指導医：長谷川 博文^{※①}

3) 救急医療研修

- ・救急医療研修は済生会福岡総合病院で行う。
- ・麻酔科研修の4週を含む。（気管挿管を含む気道管理及び呼吸管理、急性期の輸液・輸血療法、並びに血行動態管理法についての研修）

研修到達目標

- ・重症を含む救急患者に対処するための知識と技術を習得し、外傷を含む一般的な救急患者の初療ができるようになることを到達目標とする。

a) 基本的手技：心肺蘇生、気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ、圧迫止血、胃洗浄、イレウス管の挿入、などを研修するが、これは内科・外科における研修手技と重複することが多い。

b) 救急研修で扱う疾患・病態

- ・日勤、準夜帯、当直帯に救急外来を受診された患者の初療を行う。
- ・意識障害・脳血管障害、ショック、不整脈、突然の胸痛、急性呼吸不全・慢性呼吸不全の急性増悪、吐血、急性腹症、重症感染症、中毒、CPAOAなど

4) 小児科研修

- ・小児科研修は、福岡赤十字病院で行う。

研修到達目標

- ・こどもに対するアプローチの仕方（医療面接、乳幼児の系統的診察）知っておかねばならない医療知識

・診断・治療の考え方

・救急処置などに必要な手技（採血、点滴、各種細菌・ウイルス迅速検査、髄液採取（腰椎穿刺）、骨髄液、超音波検査（心臓、肝臓、腎臓、消化管、頭部（新生児））

・検査結果の判読（血液・尿検査、CT・MRI、脳波、心電図）

研修実施責任者：小島 雅之

指導医：古野 憲司

5) 精神科

・精神科研修は、福岡県立精神医療センター太宰府病院^{※①}、福岡病院^{※②}、雁の巣病院^{※③}のいずれかで行う

・多くの精神科疾患に接し、患者とのコミュニケーションのとり方、病態把握、診断、投薬について習い、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬の使い方を習得する。

・統合失調症、症状精神病、せん妄、認知症などの疾患を担当して、レポートを作成する。

研修実施責任者：小嶋 享二^{※①}、藤永 拓朗^{※②}、井口 整^{※③}

指導医：重松 淳哉^{※①}、鈴木 宗幸^{※②}、井口 整^{※③}

6) 産婦人科研修

・産婦人科研修は済生会福岡総合病院と東野産婦人科^{※①}、青葉レディースクリニック^{※②}、あまがせ産婦人科^{※③}のいずれかで行う。

・妊娠・出産、産科疾患や婦人科疾患、思春期や更年期における医学的対応などを含む一般診療において頻繁に遭遇する女性の健康問題への対応等を習得する。

研修実施責任者：東野 純彦^{※①}、小松 一^{※②}、天ヶ瀬 寛信^{※③}

指導医：村田 将春^{※①}、村尾 寛^{※②}、天ヶ瀬 寛信^{※③}

7) 一般外来研修

・一般外来研修は、済生会福岡総合病院における内科研修のうち8.6週（2ヶ月）総合診療外来と地域医療研修のうち2日間行う。

・初診患者の症候・病態について適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患の継続診療を行うため、特定の症候や疾病に偏らない研修を行う。

8) 地域医療研修

・地域医療研修は、済生会唐津病院^{※①}、済生会飯塚嘉穂病院^{※②}、済生会岩泉病院^{※⑥}のいずれかで行う。

・済生会唐津病院で地域医療研修を行う場合、研修期間のうち1日をまえざとホームクリニック^{※③}、0.5日～1日を済生会介護老人保健施設まつら荘^{※④}、済生会特別養護老人ホームめづら荘^{※⑤}にて研修を行う。

・選択期間を利用して2週を上限とし済生会岩泉病院^{※⑥}で研修を行うこともできる。

・外来・病棟診療、在宅診療、老健施設における研修などを通して、地域の特性に即した医療を学び、都市部の基幹病院では経験できない診療業務を経験する。

研修実施責任者：山懸 基維^{※①}、土田 治^{※②}、前里 喜一^{※③}、園田 孝志^{※④}、千布 裕^{※⑤}、柴野 良博^{※⑥}

指導医：山懸 基維^{※①}、園田 孝志^{※①※④}、千布 裕^{※①・⑤}、迫 康博^{※②}、前里 喜一^{※③}、柴野 良博^{※⑥}

9) 麻酔科、整形外科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科研修は病院で定めた必修科目であり、済生会福岡総合病院で行う。

- ・麻酔科研修：手術患者の術前の全身状態の評価（病態や合併症の把握など）、術中の管理計画（気道呼吸管理、輸液・輸血管理、循環管理など）の立案を行い、呼吸循環管理を実践する。また末梢静脈路確保、気道確保など医療技能の修練を図る。
- ・脳神経外科研修：頭部外傷、脳血管障害、脳腫瘍、未破裂脳動脈瘤の診断ができる。開頭手術に参加し術後管理ができる。
- ・整形外科研修：整形外科疾患の診察並びに検査計画ができる。整形外科の一般的な疾患、関節外科、脊椎、多発外傷、骨盤骨折、整形外科的リハビリテーションにおける診断と治療に必要な基礎知識を身に付ける。
- ・形成外科研修：整容的機能的障害の診断と、治療に必要な基礎知識を身につける。
- ・泌尿器科研修：泌尿器疾患の病歴聴取・診察ができ、治療方針の計画ができる。

9. 研修医の評価と修了判定

- ・研修医は受け持ち医として患者の退院要約を遅滞なく作成、指導医の評価を受ける。
- ・研修医は経験した症例について、遅滞なくオンライン評価システム「PG-EPOC」へ入力し、指導医の評価を受ける。
- ・上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・副プログラム責任者が、研修医に対してフィードバックを行う。
- ・2年間の全プログラム修了時、研修管理委員会において目標到達度、各研修中の評価表、面接を行って、臨床研修の到達目標の達成状況について総合評価をする。病院長は研修管理委員会の評価を受けて修了証書を交付する。

10. 募集定員と採用方法

1) 募集定員

11名

2) 採用方法

a) 応募資格

- ・2026年3月に大学医学部または医科大学を卒業見込みの者
- ・2026年3月以前に大学医学部または医科大学を卒業し、2026年に医師免許を取得見込みの者

b) 応募手続き

次の書類を郵送または持参する。

- ・履歴書（所定の書式に自筆のこと、学歴は高校卒業時から記入）、写真貼付、当院ホームページからダウンロード
- ・卒業（見込）証明書、成績証明書
- ・健康診断書
- ・小論文 テーマ：医師としての将来設計について 字数800～1000字 書式は自由

c) 選考

医師臨床研修マッチングシステムに参加していることから、そのスケジュールに従い、当院において選考試験（面接試験）を実施する。

11. 身分及び処遇

- 1) 身分……………済生会福岡総合病院契約職員（常勤）
- 2) 月給……………1年次：月額280,000円、2年次：300,000円
- 3) 賞与……………なし
- 4) 勤務時間……………午前8時30分～午後5時00分（休憩時間を含む）、週37.5時間勤務、時間外勤務有
- 5) 休日等……………土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始（12/29～1/3）、開院記念日（7/3）、年次有給休暇（初年度は13日、次年度14日）、忌引き休暇等
- 6) 当直……………月平均4回
- 7) 宿舍及び院内個室…宿舍なし 住宅手当有（家賃に応じ上限28,000円） 院内個室は無し（医局に研修医用の机を整備）インターネットは院内にて利用可能
- 8) 図書室……………あり 各科専門誌、洋雑誌購読あり。
- 9) 社会保険等……………全国健康保険協会、厚生年金、労働者災害補償保険、雇用保険に加入
- 10) 健康管理……………定期健康診断（年2回）、B型肝炎・インフルエンザ等の予防接種
- 11) 医師賠償責任保険…個人加入については任意
- 12) 外部の研修活動……学会、研究会への参加可 学会発表ための出張の承認を得られたときは旅費を支給
- 13) アルバイトについて…研修期間中は、研修業務等に影響を及ぼす可能性があるため外部でのアルバイトは禁止とする。